

阿久比町

まち・ひと・しごと創生総合戦略



平成 28 年 3 月
阿 久 比 町

目次

第1章 総合戦略について	1
1. 策定の目的	1
2. 計画期間	2
3. 総合計画等との関連	2
4. 検証・改善	2
第2章 阿久比町の将来展望	3
(1) 現状分析からみえる町の特徴	3
(2) 目指すべき将来の方向性	4
(3) 人口の将来展望	5
第3章 基本的視点と基本目標について	6
1. 施策展開の基本的視点	6
(1) 時代を見据えたまちづくり	6
(2) 住み続けたいまちづくり	6
(3) 若い世代の就労と結婚・妊娠・出産・子育てについての希望の実現	6
2. 基本目標	7
第4章 施策の展開	12
1. 基本目標1 安定した雇用を創出する	12
(1) 企業立地の促進・産業の集積	12
(2) 阿久比町の強みを活かした産業構造の確立と職業として選ばれる農業の実現	13
(3) だれもが働きやすい職場環境づくり	14
2. 基本目標2 阿久比町への新しい人の流れをつくる	15
(1) 移住・定住促進につながるシティプロモーション 知多半島で選ばれるまちNo. 1へ	15
(2) 阿久比町が持つ資源を活用した地域の魅力やブランド力の向上	16
(3) 中部国際空港や名古屋駅を利用する旅行者等の阿久比町への来訪促進	17
3. 基本目標3 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる	18
(1) 結婚の希望をかなえる支援	18
(2) 妊娠・出産から育児に至るまで切れ目のない一貫した支援	18
(3) 子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくり	19
4. 基本目標4 時代に合った地域づくり、安全・安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	20
(1) 地域コミュニティの活性化と安全で安心して暮らせる協働のまちの実現	20
(2) 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で健康に暮らすことができる仕組みづくり	21
(3) 名古屋市並びに周辺市町村との広域連携によるまちづくり	22



第1章 総合戦略について

1. 策定の目的

阿久比町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、阿久比町人口ビジョンを踏まえ、阿久比町の「まち・ひと・しごとの創生」に向けた目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

国における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則等を基本に、愛知県の総合戦略も勘案し、産官学金労言等の多様な意見を反映して策定しています。

国における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方

1. 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方

■人口減少と地域経済縮小の克服

- ・本格的な人口減少時代の到来、地方と東京圏の経済格差による人口の一極集中
- ・地域経済の縮小により、人口の一極集中と地方人口減少に拍車がかかる。
- ・地方における負のスパイラルの解消
 - ①東京一極集中を是正する。
 - ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
 - ③地域の特性に即して地域課題を解決する。

■まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

- ・地域経済の活性化、産業の高付加価値等による「しごとの創生」
- ・地方就労の促進や移住定住促進等による「ひとの創生」
- ・安心できる暮らしの確保や都市のコンパクト化、広域連携等による「まちの創生」

2. 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

①自立性

各施策、構造的な問題に対処し、地方公共団体等の自立につながるようにする。

②将来性

地方が自主的かつ主体的に、前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。

③地域性

各地域の実態にあった施策を支援することとし、各地域は客観的データに基づき現状分析や将来予測を行い、「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備する。

④直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、施策を集中的に実施する。また、住民代表・産官学金労言等の連携を促すことにより、政策の効果をより高める工夫を行う。

⑤結果重視

明確なPDCAメカニズムの下、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。



2. 計画期間

総合戦略の対象期間は、国、県の総合戦略と同様、平成27(2015)年度から平成31(2019)年度の5年間とします。

3. 総合計画等との関連

本町では最上位計画である「第5次阿久比町総合計画」[計画期間：平成23(2011)年度から平成32(2020)年度]に基づき、「みどりと共生する快適生活空間・あぐい」を将来像に掲げ、各種施策を展開しています。

総合戦略においては、総合計画で位置付けられた各分野の施策のうち、人口対策と地域経済縮小の克服に関連する施策・事業を主にとりまとめています。

また、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や県の総合戦略の視点や目標を踏まえ、各種施策の連携を図ります。

4. 検証・改善

総合戦略は、町を取り巻く社会経済情勢の変化などに適切に対応していくため、基本目標に係る数値目標や主な事業に係る重要業績評価指標（KPI）の達成度を検証するマネジメント・サイクルを実施し、有効な取り組みや新しい事業等の立案・見直しを行います。

※重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。事業毎の進捗状況を検証するために設定する指標。



第2章 阿久比町の将来展望

(1) 現状分析からみえる町の特徴

本町の人口動向や人口ビジョン・総合戦略策定のためのアンケート調査結果に基づく現状分析から把握される町の特徴は以下のとおりとなります。

■人口動向等に関する主な特徴

【人口動向に関して】

- ◇総人口は増加傾向で推移している。
- ◇特に平成 22 (2010) 年以降、大規模開発による宅地分譲 (陽なたの丘) が始まり、東部小学校区で急激に人口が増加した。
- ◇校区別の高齢化の状況に大きな差異があり、高齢化率の最も高い英比小学校区 (30.2%) と最も低い東部小学校区 (19.0%) では 10%以上の差がある。
- ◇人口動態には自然増減よりも社会増減が影響している。
- ◇転入者は 20 代後半から 30 代までの男女が多く、その子どもである 0 歳から 4 歳までの転入も多い。
- ◇転入・転出ともに近隣市町が多い。
- ◇未婚率は国・県と比べ低い、男性の未婚率は女性と比べ高い。
- ◇近年、合計特殊出生率が上昇し、国・県と比べ高い値である。

【産業・労働に関して】

- ◇第 1 次産業・第 2 次産業就業者割合が国・県に比べて高く、特に男性で製造業での就業が多い。
- ◇農業従事者の高齢化が進んでいる。
- ◇30 代女性の労働力率の低下が顕著にみられる。

■アンケート調査結果からみえる主な特徴

【子ども・子育てに関して】

- ◇約 8 割が子どもを 2 人以上持ちたいと思っている。
- ◇理想の子どもの人数を実現するための問題点としては、子育てや教育への経済的負担があることがわかった。
- ◇出産や子育てには、経済的負担のほか、地域における子育て支援サービスや職場での仕事と子育ての両立など精神的不安がある。

【まちづくりについて】

- ◇今後も住み続けたい意向を持つ人が約 8 割と定住意向が高い。住み続けたい理由は「家や土地があるから」及び「住みなれた土地だから」が多い。
- ◇今後のまちづくりの方向性として、各年代とも「快適住環境のまち」への関心が強い。



(2) 目指すべき将来の方向性

本町は、知多半島中央部に位置し、名古屋市中心部まで鉄道、道路を利用して約30分、中部国際空港までも同様に約30分でアクセスできる立地条件を有しています。

また、町内に知多半島を南北に貫く知多半島道路の阿久比インターチェンジがあり、南北方向の主要地方道名古屋半田線、三河地区につながる衣浦大橋と知多半島の西知多産業道路を結ぶ東西方向の主要地方道西尾知多線など、近隣市町とのアクセスにも恵まれています。

さらに、阿久比川を軸にその両側に農地が広がり、町の風景を特色づける緑の核が形成され、それを取り囲む丘陵に住宅地が立地し、ホテルの舞う自然が残り、住宅地と田園風景が調和したみどり豊かな住環境を有するまちです。

こうした交通利便性とみどり豊かな住環境といった特性はアンケート調査結果からも住民に認識されており、高い愛着度、定住意向にも反映されていると考えられます。

人口減少局面を迎えた場合でも、交通利便性のよい魅力ある快適な生活空間を有し、安心して子どもを産み育てることのできる「住みよいまち」としての特性を伸ばしていくことが人口対策として有効であると想定されます。

人口対策の3つの方向

社会増の維持・確保に向けて ～安定した雇用の創出・町への新しい人の流れをつくる～

- ◇産業振興と新たな企業誘致により、質が高く安定した雇用の場の確保を図ります。
- ◇選ばれる町としての魅力向上を図り、定住につながる環境づくりと積極的な情報発信を推進します。

自然増の維持に向けて ～若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる～

- ◇結婚のきっかけづくりや妊娠・出産・子育てに対する経済的負担や体力的・精神的不安を解消するため、切れ目のない支援の充実を図り、若い世代の結婚や妊娠・出産・子育ての希望がかなうまちづくりを進めます。

社会減の抑制に向けて ～時代にあった地域づくり、安全・安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する～

- ◇高齢化の進行や災害といった将来の不安に対し、地域コミュニティの活性化や周辺市町村との広域連携により、誰もがいつまでも元気に、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

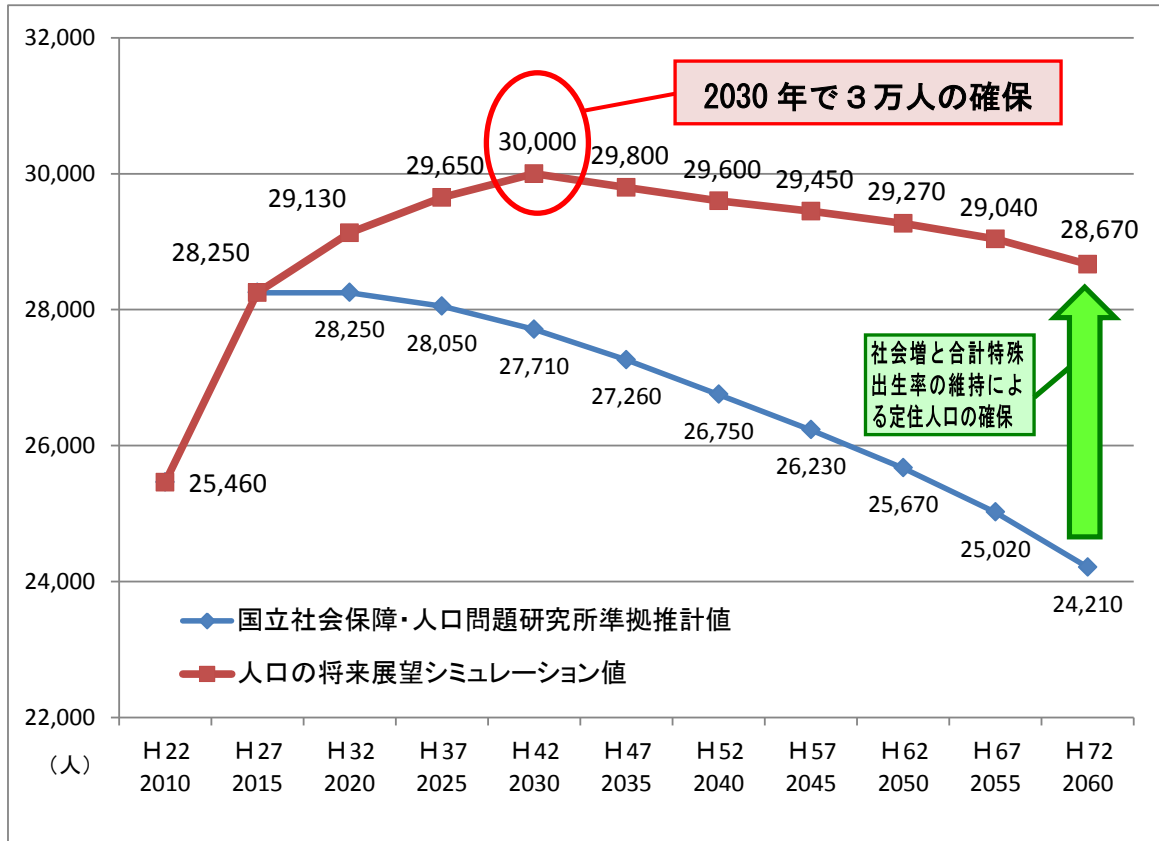


(3) 人口の将来展望

本町の人口の将来展望として、阿久比町人口ビジョンでは平成 42 (2030) 年においておおむね 30,000 人の確保を目指すこととします。また、その後の人口減少局面においても、合計特殊出生率の人口置換水準程度 (2.0) の維持を図り、持続可能な年齢構成のバランスが取れる将来人口を展望しています。

本総合戦略の目標年度である平成 31 (2019) 年度に近似する、平成 32 (2020) 年の人口の見込みは 29,130 人となっています。

阿久比町人口ビジョンにおける人口の将来展望



資料：阿久比町人口ビジョン



第3章 基本的視点と基本目標について

1. 施策展開の基本的視点

国の長期ビジョンでは、目指すべき将来の方向として、「将来にわたって『活力ある日本社会』を維持すること」が掲げられています。さらに、地方創生による将来の日本社会の姿として、「自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す」、「外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る」、「地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る」などが掲げられています。

本町においては、近年の住宅開発により子育て世代を中心にした転入による人口増加が進んでいます。今後も、移住・定住条件の向上による社会増の維持・確保、合計特殊出生率の維持による自然増に向けた効果的な施策を展開することにより、将来における人口減少の抑制が可能であると考えられます。

こうした本町の「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を目指すため、阿久比町人口ビジョンを踏まえ、国、県をはじめ関係機関・民間企業等と連携し、総合戦略における施策・事業を展開する上での基本的視点は以下のとおりとなります。

(1) 時代を見据えたまちづくり

本町は、平成 42（2030）年ごろまでは人口の増加傾向が維持されると予想されていますが、その後は緩やかに人口減少が進み、高齢化率も上昇していく見込みであるため、人口の中長期的な展望を踏まえて、機能的・効率的で持続可能な都市基盤を構築します。

また、地域社会を構成する人々が共に支え合い、安全で、安心して住み続けられる社会を実現します。

(2) 住み続けたいまちづくり

地元又は本町の通勤圏内に就職し住み続けたい、自然に恵まれた住みよい環境の本町で子どもを産み育てたい、名古屋都心部への交通アクセスに優れたベッドタウンとして本町に移り住みたい等の様々なニーズに対応した具体的施策を展開します。

(3) 若い世代の就労と結婚・妊娠・出産・子育てについての希望の実現

若い世代が本町で安心して働き、希望どおり結婚・妊娠・出産・子育てをすることができる社会を実現します。



2. 基本目標

将来展望、基本的視点、国の総合戦略での基本目標等を踏まえ、本町における4つの基本目標を設定します。

4つの基本目標

基本目標 1

安定した雇用を創出する

基本目標 2

阿久比町への新しい人の流れをつくる

基本目標 3

若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標 4

時代に合った地域づくり、安全・安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

**基本目標 1****安定した雇用を創出する****■現状と課題**

本町における産業別就業者の割合を県全体と比較すると、第1次産業、第2次産業の比率が高く農工業への就業者が多いことが特徴として挙げられます。また、町西部の丘陵地等で形成されている工業団地には先端産業が立地しています。しかし、地方を取り巻く厳しい経済状況により、担い手の高齢化が進む農業など持続的な発展が難しい産業もみられます。

また、女性の雇用機会の確保や子どもを持つ親が働きやすい環境づくりの促進が必要です。

■施策目標

既存産業の振興と企業誘致、農業の成長産業化の支援に努め、地域経済を活性化し、安定した雇用の創出を図ります。

■目標指標

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
町内企業の従業者数	10,657 人	12,000 人

現状値：経済センサス基礎調査

■施策の展開

- (1) 企業立地の促進・産業の集積
- (2) 阿久比町の強みを活かした産業構造の確立と職業として選ばれる農業の実現
- (3) だれもが働きやすい職場環境づくり



基本目標 2

阿久比町への新しい人の流れをつくる

■現状と課題

本町は、恵まれた交通立地条件をはじめ、ホテルの舞う自然、住宅地と田園風景が調和したみどり豊かな住環境を背景に、住宅地開発による人口増加が続いています。

しかし、名古屋市民、刈谷市民及び安城市民を対象としたアンケート調査の結果によると、本町の認知度は、対象市順に 82%、90%、86%（半田市 97%、99%、98%）、訪問経験は 40%、58%、44%（半田市 68%、85%、81%）であり、半田市などの近隣市町と比較しても低い割合となっており、更なる知名度の向上が望まれます。

この現状を改善し、交流人口の増加を図るため、自然・伝統・文化などの地域資源を活用しながら本町の魅力を積極的に町内外に情報発信する必要があります。

■施策目標

交通立地条件とともに、暮らしやすいまちとしての魅力を発信し、地域外から人が訪れ、住み、交流する新たな人の流れをつくります。

■目標指標

指 標	現状値(平成 27 年)	目標値(平成 31 年)
名古屋市及び三河地域から本町への訪問経験率	48%	60%

現状値：観光資源開発アンケート WEB 調査（三河地域は刈谷市、西尾市、安城市）

■施策の展開

- (1) 移住・定住促進につながるシティプロモーション 知多半島で選ばれるまち No.1 へ
- (2) 阿久比町が持つ資源を活用した地域の魅力やブランド力の向上
- (3) 中部国際空港や名古屋駅を利用する旅行者等の阿久比町への来訪促進



基本目標3

若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

■現状と課題

本町は、子育て環境の充実に取り組むほか、子育ての経済的負担の軽減、女性の働きやすい環境づくりの促進に取り組んできました。また、幼保小中一貫教育の取り組みなど教育環境のよさも特色のひとつとなっています。

本町の自然増減をみると、出生数が死亡数を上回る自然増で推移しており、平成25(2013)年の合計特殊出生率は、国、県を上回る2.02となっています。しかし、アンケート調査では希望する子どもの数と実際の子どもの数に大きな差がみられるなど、子育ての経済的・人的負担感、ワーク・ライフ・バランスの欠如などが、出産・子育ての障害となっていることがうかがえます。

■施策目標

子育てしやすい環境を整備し、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまちづくりを推進し、本町の特色として、「子育てするなら阿久比」をPRしていきます。

■目標指標

指 標	現状値(平成26年)	目標値(平成31年)
本町の子育て支援環境満足度	64%	75%

現状値：子育て支援に関するアンケート調査（未就学・小学生児童満足度5段階評価中3以上）

■施策の展開

- (1) 結婚の希望をかなえる支援
- (2) 妊娠・出産から育児に至るまで切れ目のない一貫した支援
- (3) 子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくり



基本目標 4

時代に合った地域づくり、安全・安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

■現状と課題

本町は、名古屋市、中部国際空港へのアクセスのよさとともに、日本有数の自動車産業が集積する三河地区に近接しています。こうした立地条件を最大限に活かしたまちづくりのためにも近隣市町との連携が重要になっています。また、本町の高齢者が今後も増加することが予想される中、高齢者の買い物弱者対策、認知症対策などを図るとともに、介護予防の充実に努める必要があります。さらには、安全・安心の意識の高まりに対する危機管理体制の充実に努める必要があります。

■施策目標

住民、関係団体、町などが協働して、安全・安心な地域づくりに取り組み、誰もが、いつまでも元気に、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

■目標指標

指 標	現状値(平成 27 年)	目標値(平成 31 年)
住み続けたいと思う住民の率	79%	85%

現状値：総合戦略策定のための基礎調査

■施策の展開

- (1) 地域コミュニティの活性化と安全で安心して暮らせる協働のまちの実現
- (2) 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で健康に暮らすことができる仕組みづくり
- (3) 名古屋市並びに周辺市町村との広域連携によるまちづくり



第4章 施策の展開

基本目標を達成するための、基本的方向、主な取り組み、及びその重要業績評価指標（KPI）を次のとおり設定します。

1. 基本目標 1 安定した雇用を創出する

（1）企業立地の促進・産業の集積

■基本的方向

本町の地域特性や潜在力を活かしながら、地域への経済波及効果の高い産業の誘致をはじめとする企業の立地促進に取り組み、地域経済を支える産業の集積を進めます。また、工業用地の確保と優良企業の誘致に努めます。

■主な取り組み

- 地域経済を支える産業の集積を進め、雇用創出を図るため、基盤整備事業により新設する工業用地への優良企業の誘致を図ります。
- 海外ビジネスを希望する企業や海外進出を目指す企業に対し、海外ビジネスコーディネーターやジェトロ名古屋を活用した事業展開情報の提供を図ります。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
町内事業所数	900 事業所	950 事業所

現状値：経済センサス基礎調査



(2) 阿久比町の強みを活かした産業構造の確立と職業として選ばれる農業の実現

■基本的方向

農業、工業並びに商業の発展を促し、消費者のニーズにあった産業構造を確立するための各種支援策を展開します。また、農業の高付加価値化、成長産業化を図ります。さらに、本町の産業を支える人材の確保と育成に努めます。

■主な取り組み

- 基幹的な担い手等の育成・確保や生産性の優れた営農を可能とする環境整備とともに、阿久比町認定ブランド品のPR及び販売促進による競争力のある産地づくりやブランド化、あぐい米など地域の食材を利用した商品開発への支援による6次産業化の促進などに取り組み、若者にとっても魅力ある職業として選ばれる農業の実現を図ります。
- 担い手の安定的な経営の確立を図るため、遊休農地の利用集積促進による農業経営規模の拡大をはじめ、青年・女性農業者の確保や人材育成に向けた支援体制の構築、技術習得等への支援や経営力向上のための各種研修の実施など「経営力強化・向上」に着目した各種支援策の充実を図ります。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成26年)	目標値(平成31年)
認定農業者数	55人	70人

現状値：産業観光課調べ



(3) だれもが働きやすい職場環境づくり

■基本的方向

住む場所とともに極めて重要な要素である「働く場」を充実させるため、若者、女性にとっても働きやすい職場環境づくりの促進を図ります。また、魅力ある産業、働きやすい職場環境の確保に努めます。

■主な取り組み

- 地域経済の活性化を図るため、町、商工会、金融機関など関係機関のネットワーク体制構築による総合的な創業支援を図ります。
- 若年者、女性の雇用を促進するため、県やハローワークなど関係機関と連携のもと、就職相談や情報提供、事業所への啓発を行うなど就職支援を行います。
- 女性が経済的、社会的に自立し、希望する分野で活躍できるように、女性のための各種講座、就職応援セミナーなどへの参加促進など女性の就業継続への支援とともに、仕事と子育ての両立ができる働きやすい職場環境づくりを促進します。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 22 年)	目標値(平成 31 年)
20 代後半から 40 代前半(25～44 歳) 女性の労働力率	70.9%	75% (5%増)

現状値：平成 22 年（2010）国勢調査



2. 基本目標 2 阿久比町への新しい人の流れをつくる

(1) 移住・定住促進につながるシティプロモーション 知多半島で選ばれるまちNo. 1へ

■基本的方向

本町の魅力を掘り起し、地域イメージを強化することにより、住民が地域に対する誇りを醸成し、住み続けたいと思えるまちをつくります。また、積極的に地域情報を発信することにより、知多半島で選ばれるまちNo. 1を目指します。

■主な取り組み

- 観光資源を掘り起し、魅力聞き取りアンケート、町外者の認知度調査、インターネットアンケート、まちの魅力アイデアソン（グループ単位でアイデアを出し合い、それをまとめていく形式のイベント。アイデア(Idea)とマラソン(Marathon)を合わせた造語）の実施による町の魅力発見と活用によるシティプロモーションを実施します。
- 空き家、空アパートについて、サロン、宅老所、子どもの遊び場、安価な賃貸物件、シェアハウスとしての活用など空き家等の有効活用策を、所有者や地域住民と連携のもと、多様な視点から検討します。また、空き家とともに既存の優良な空き地や住宅開発による新設用地が、移住や店舗・企業の移転等を希望する者の選択肢になるように情報発信し、移住・定住促進につなげます。
- 本町の魅力を発信するための重要ツールであるホームページをスマートフォンに対応する形式に変更し、若い世代から高齢者までが利用しやすいホームページにリニューアルすることによりPR効果を高め、若者の移住・定住促進につなげます。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
観光ブランドの商品化	0 件	1 件
ホームページ年間アクセス数 (トップページ)	340,000 件	400,000 件 (2 割増)

現状値：政策協働課調べ



(2) 阿久比町が持つ資源を活用した地域の魅力やブランド力の向上

■基本的方向

本町の様々な地域資源を活用し、訪問者の受け入れを活発に行うことにより、リピーターを生み出し、本町への再訪や移住を促進します。また、住民や関係団体と協働し、観光客や農業体験者を呼び込むなど、地域経済の活性化を図るため、地域資源を磨き上げる観光に取り組みます。

■主な取り組み

- 阿久比スポーツ村を元気なまちづくりと交流の拠点に位置付け、スポーツイベントの開催をはじめ、スポーツ人口の増大のための企画、学生の部活動での利活用の検討、公益財団法人スポーツ医・科学研究所との連携によるスポーツとICTによる実証実験誘致、健康プログラムの開発など、健康づくりと交流人口の増加を図ります。
- 名鉄阿久比駅、役場庁舎周辺での町特産品の販売、フリーマーケットの開催によるにぎわいがあるまちづくりのための社会実験を実施します。また、農作物直売所の拡充など地産地消を推進します。
- 役場庁舎に隣接する多目的ホール（平成28年度完成予定）を拠点とする芸術・文化イベントの開催など質の高い芸術に触れる機会の充実とともに、文化祭の開催など多様な芸術・文化の鑑賞や活動成果を発表する機会の充実を図り、地域文化の魅力を発信します。
- 住宅地に隣接した町営の家族農園を開設し、地域住民をターゲットとする貸し農園として活用するとともに、空き区画は都市部からの農業体験者の受け入れを図ります。
- ヘイケホテルをブランド化するため、安定的・継続的にホテルが生息し続けられる環境づくりを進めます。また、「ホテル飛びかう、豊かな自然のまち阿久比」として広く町内外にPRします。
- 町北部の花かつみ園と下芳池周辺を拠点とするウォーキングコース及び町南部の権現山と西狐谷池周辺を拠点とするウォーキングコースの整備を図ります。



○都市から身近で、豊かな自然環境を有する特性を活かし、若手農業者を中心とした組織の運営により、たけのこ掘り、田植え・稲刈り、野菜収穫などの1年を通じた体験型農業を実施します。また、農業体験者のリピーターを増やし、本町への再訪や移住を促進します。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
家族農園利用者数	0 人	80 人
ホテル観賞施設を訪れる人数	2,000 人	5,000 人 (2.5 倍)

現状値：建設環境課調べ

(3) 中部国際空港や名古屋駅を利用する旅行者等の阿久比町への来訪促進

■基本的方向

2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2027年のリニア中央新幹線開業も見据え、中部国際空港や名古屋駅周辺を訪れる旅行者が気軽に本町に立ち寄れる環境を整備します。また、知多半島道路や名古屋鉄道を利用して知多半島を訪れる旅行者等が本町を通過するだけでなく、滞在できる環境の強化に取り組みます。

■主な取り組み

- 来町者の利便性向上の一環として、無料で手軽にインターネットを利用できる公衆無線LAN（Wi-Fi）環境を整備し、観光誘客、地域活性化の促進を図ります。
- 計画されている知多半島道路「新阿久比パーキングエリア上り（仮称）」を町の観光及び特産品・農産物の販売拠点として活用できる整備を促進します。また、パーキングエリアから眺める町の風景が魅力的な景観スポットになる環境整備を検討します。
- 中部国際空港や名古屋市内での阿久比町をPRするためのイベント、プロモーション活動、特産物の販売などを行います。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
Wi-Fi環境を整備した町の施設数	0 件	5 件



3. 基本目標3 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

(1) 結婚の希望をかなえる支援

■基本的方向

結婚を希望する者が結婚するための支援体制を整備し、本町で安心して子どもを産み育てることができる社会をつくりまします。

■主な取り組み

○商工会、農業者団体など町内の各種団体と本町が連携し、婚活イベントなど結婚を希望する独身者への出会いの場をつくる婚活支援事業を実施まします。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成26年)	目標値(平成31年)
婚活イベントによる結婚成立数	0組	10組

(2) 妊娠・出産から育児に至るまで切れ目のない一貫した支援

■基本的方向

妊娠、出産から子育てをしていく保護者が、不安にならず安心して子育てができるようなまちづくりを進めまします。

■主な取り組み

○少子化や核家族化により孤立し、祖父母や近隣住民からの援助もない中で子育てをしていく保護者が不安にならず安心して子育てができるよう、妊婦健康診査をはじめ、産前産後ヘルパー派遣事業、乳児家庭全戸訪問事業などを通じて出産前から一貫した支援や助言を行います。また、子ども発達支援に関して、相談支援に関わる職員の相談技術のさらなるスキルアップを図りまします。



■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
乳児家庭訪問率	95.7%	100%(全戸)

現状値：健康介護課調べ（保健師訪問件数 287/300）

（3）子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくり

■基本的方向

子育て支援サービスの充実を図るとともに、地域や社会で子育てを支える環境づくりを進めます。また、幼稚園・保育園の利用希望に対応するため、ニーズ量の確保を図ります。

■主な取り組み

- 子ども医療費の支給、出産祝金、保育料軽減、教育資金の利子補給など、子育て世代への経済的負担を軽減するための支援を図ります。
- 子育てに関する情報提供・相談体制の充実をはじめ、子育て支援センターの充実、子育てサークルへの支援、親や子どもの交流の場づくり、放課後児童の健全育成事業など、子育てを地域全体で見守る環境を整備します。
- 既設幼稚園・保育園の定員を検討していくと同時に、民間事業者の参入を奨励し、弾力的運用による子育てニーズへの対応を図ります。
- 多様な保育サービスの拡充に向け、病児・病後児保育事業、一時預かり事業、子育て短期支援事業の実施を検討していきます。
- 幼保小中一貫教育の推進をはじめ、情報教育の推進、いじめ対策の推進など子ども一人一人の個性や特性を大切にしながらきめ細やかな支援と平等な学習機会を提供します。また、国際化に対応するため英語力など実践的な学習を充実させます。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
放課後児童健全育成事業 実施箇所とクラス数	4 箇所 (5 クラス)	6 箇所 (9 クラス)



4. 基本目標4 時代に合った地域づくり、安全・安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(1) 地域コミュニティの活性化と安全で安心して暮らせる協働のまちの実現

■基本的方向

地域の特性や実情にあったコミュニティを支える仕組みをつくり、人と人が支え合う地域づくりを目指します。また、住民と連携し、安心して暮らせる地域づくりを進めます。

■主な取り組み

- 犯罪のない安全で住みよいまちをつくるために、住民、警察、町が連携し、巡回パトロールの実施など地域に密着した防犯活動を推進するとともに、防犯カメラの設置など犯罪を抑止する環境の整備を進めます。特に子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域と協働した地域見守り隊の活動支援など児童・生徒が安心して通学できる環境を整えます。
- 小学校区での防災訓練の実施、自主防災組織の強化、地域防災リーダーの育成など防災意識や地域防災力の向上を図るとともに、災害情報の収集・発信機能の強化、避難所支援機能の強化など地域防災体制の充実を図ります。
- 小学校区ごとにコミュニティ活動や地域スポーツの拠点となり、災害時には避難場所としての機能を有する地区体育館を整備します。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成26年)	目標値(平成31年)
防犯カメラ設置数	32基	80基

現状値：防災交通課調べ



(2) 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で健康に暮らすことができる仕組みづくり

■基本的方向

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、健康で自立した生活を営むことができる体制づくりに努めます。

■主な取り組み

- 地域住民や商業者と連携して買い物弱者対策の検討を進めます。また、商業者が行う電話注文等による買い物配送事業を支援します。
- 日常生活において気軽に取り組むことのできる健康ウォーキングを推進し、身体活動や運動の普及・啓発を行うとともに、健診受診率の向上を図り、住民の健康増進に向けた取り組みを支援します。
- 地域の中で福祉活動、防犯活動等、住民がお互いに支え合うためのネットワークを構築し、各分野で活躍する地域貢献活動の担い手を育成する「つながるまちあぐい推進事業」を実施します。
- 高齢者が増加する中、介護予防に向けた取り組みを推進するとともに、認知症対策など高齢者が住み慣れた地域で暮らせる環境づくりに取り組みます。また、医療、介護、介護予防、生活支援などのサービスを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」を構築し、今後進展する高齢化社会においても安心して暮らせるまちをつくれます。

■重要業績評価指標（KPI）

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
ボランティア名簿に登録された 団体と人数	32 団体 625 人	35 団体 700 人

現状値：社会福祉協議会調べ



(3) 名古屋市並びに周辺市町村との広域連携によるまちづくり

■基本的方向

名古屋市並びに三河方面への交通アクセスに優れたベットタウンとしての特性を積極的に情報発信するシステムを構築し、名古屋市(N)及びその周辺市町村と阿久比町(A)と三河(M)との連携によるNAMトライアングル構想による住みやすく富める町「田園町富」を目指します。

■主な取り組み

- 名古屋市並びに周辺市町村をはじめ民間企業等と災害時応援協定を締結し、物資供給を受ける体制を構築するとともに被災時に相互援助ができるよう広域で大規模災害に備えます。
- 名古屋市や三河方面に通勤・通学する住民が、現地で被災した際に徒歩で帰宅する時の支援として、知多半島道路、県道名古屋半田線、県道西尾知多線などを徒歩帰宅支援の主要道路として指定し、徒歩帰宅中の疲労・負傷等を防ぐため、県の協力のもと、主要道路の一角に一時休憩施設を確保し、帰宅支援情報の提供も行える拠点を整備します。
- 名古屋市及び三河方面に通勤する者に本町が交通アクセスに優れたベットタウンであることをPRするため、新規住宅開発業者や観光協会と連携したパンフレット、ポスター等を作成し、積極的に情報発信します。

■重要業績評価指標 (KPI)

指 標	現状値(平成 26 年)	目標値(平成 31 年)
災害時応援協定数	官公庁 10 件 民間 23 件	官公庁 12 件 民間 27 件

現状値：阿久比町地域防災計画